

## 下 関 市 病 院 事 業 会 計

### 1 事業の概要

病院事業は、豊田中央病院、豊田中央病院殿居診療所（以下「殿居診療所」という。）及び角島診療所の1病院2診療所で業務が運営されている。なお、平成28年4月1日付けで豊浦病院（以下「旧豊浦病院」という。）は、社会福祉法人恩賜財団済生会支部山口県済生会に譲渡され、山口県済生会豊浦病院として開設されたが、旧豊浦病院に係る企業債の元利償還金及び他会計負担金等については、引き続き病院事業会計に計上されている。また、特に断りのない限り、以下においては、診療所及び旧豊浦病院分を含んだ数値を記載している。

#### (1) 医療業務の状況

病院事業の医療業務実績（患者数、病床利用率等）については、次表のとおりである。

（別表1．P110～111を参照）

医療業務実績の年度比較表（豊田中央病院分）

（単位：人）

区 分	病院分			
	令和3年度 A	令和2年度 B	対前年度 比較増減 A-B	前年度対比 A/B (%)
患 者 数 A	37,556	38,691	△ 1,135	97.1
外 来 B	25,358	25,884	△ 526	98.0
入 院 C	12,198	12,807	△ 609	95.2
年 間 延 医 師 数 D	3,139	2,567	572	122.3
年 間 延 看 護 職 員 数 E	14,258	14,640	△ 382	97.4
外 来 診 療 日 数 F	242	243	△ 1	99.6
入 院 診 療 日 数 G	365	353	12	103.4
病 床 数 H	60	60	0	100.0
医師1人1日当たり患者数 (A / D)	12.0	15.1	△ 3.1	79.5
看護職員1人1日当たり患者数 (A / E)	2.6	2.6	0.0	100.0
年間病床数 (G × H) I	21,900	21,180	720	103.4
1日平均外来患者数 (B / F)	104.8	106.5	△ 1.7	98.4
1日平均入院患者数 (C / G)	33.4	36.3	△ 2.9	92.0
病床利用率 (C / I)	55.7 %	60.5 %	△ 4.8	—
外来入院患者比率 (B / C)	207.9 %	202.1 %	5.8	—
訪問看護利用者数	1,292	1,187	105	108.8
訪問リハビリテーション利用者数	942	833	109	113.1
通所リハビリテーション利用者数	2,395	2,841	△ 446	84.3

注1 診療所及び旧豊浦病院分は含まれていない。

2 括弧内の数値は、総務省「令和2年度病院経営分析比較表」に基づく、全国の公立病院のうち、同程度の病床数の病院（50床以上100床未満）の令和2年度の平均値である。

3 病床数は、下関市立豊田中央病院及び診療所の設置等に関する条例の一部を改正し、平成30年4月1日から一般病床60床、療養病床11床へ病床数を変更した。なお、療養病床11床はすべて休床である。

4 病床数は休床病床数を除外した。また、年間病床数及び病床利用率は実際の稼働病床数60床による。

医療業務実績の状況表（2診療所分）

（単位：人）

区 分	2 診 療 所 分	内 訳	
		殿居診療所	角島診療所
外 来 患 者 数 A	(3,175) 3,151	(1,185) 1,122	(1,990) 2,029
年 間 延 医 師 数 B	266	72	194
年 間 延 看 護 職 員 数 C	460	72	388
外 来 診 療 日 数 D	日 —	(143) 日 145	(193) 日 194
医師 1 人 1 日 当 たり 患 者 数 ( A / B )	11.8	15.6	10.5
看護職員 1 人 1 日 当 たり 患 者 数 ( A / C )	6.9	15.6	5.2
1 日 平 均 外 来 患 者 数 ( A / D )	—	(8.3) 7.7	(10.3) 10.5

- 注1 殿居診療所には、常勤医師及び常勤看護師が配属されていないため、豊田中央病院の医師、看護師が兼務している。そのため、年間延医師数及び年間延看護職員数については、1人の者が異なる勤務場所で半日ずつ勤務した場合は、それぞれ0.5人として算出している。
- 2 殿居診療所の診療時間は、午後1時から午後4時までの半日診療であるが、外来診療日数は1日で算出している。
- 3 括弧内の数値は、前年度の数値である。

診療科目数は豊田中央病院が診療科目数9科、殿居診療所が診療科目数2科、角島診療所が診療科目数3科である。病床数は、当年度中に変更はなく、一般病床60床及び療養病床11床（休床）である。また、一般病床60床のうち、15床は地域包括ケア病床である。

当年度の豊田中央病院の医療業務の状況をみると、患者数は3万7,556人となっており、前年度と比較し1,135人（△2.9%）減少している。内訳は、外来患者数が2万5,358人、入院患者数が1万2,198人となっており、前年度との比較では、外来患者数が526人（△2.0%）、入院患者数が609人（△4.8%）ともに減少している。

1日平均外来患者数は104.8人で、前年度と比較し1.7人（△1.6%）減少し、1日平均入院患者数は33.4人で、前年度と比較し2.9人（△8.0%）減少している。病床利用率は55.7%で、前年度と比較し4.8ポイントの減少となっているが、これらは、主に新型コロナウイルス感染症の影響でコロナ受入病床として繰り返し対応したことにより、一般患者の入院の受入れに制限が生じたことや、新型コロナウイルス感染症の蔓延により外来患者が受診を控えたことによるものである。

なお、全国の公立病院のうち同程度の病床数の病院の令和2年度の平均値（病床数50床以上100床未満の病院の平均値。以下「類似平均」という。）との比較では、1日平均外来患者数、1日平均入院患者数いずれも豊田中央病院は下回っている。

訪問看護利用者数は1,292人で、前年度と比較し105人（8.8%）増加している。訪問リハビリテーション利用者数は942人で、前年度と比較し109人（13.1%）増加し、通所

リハビリテーション利用者数は 2,395 人で、前年度と比較し 446 人（△ 15.7%）減少している。これは主に、新型コロナウイルス感染への不安から、訪問看護及び訪問リハビリテーションを希望する利用者が増加した一方で、通所リハビリテーションの利用者は、利用を控えたことによるものである。

次に、当年度の診療所の医療業務の状況をみると、殿居診療所の外来患者数は 1,122 人、角島診療所の外来患者数は 2,029 人となっており、前年度との比較では、殿居診療所が 63 人（△ 5.3%）減少し、角島診療所が 39 人（2.0%）増加しているが、殿居診療所の減少は主に、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴う外来患者の受診控えによるものである。1 日平均外来患者数は、殿居診療所が 7.7 人、角島診療所が 10.5 人となっており、前年度との比較では、殿居診療所が 0.6 人（△ 7.2%）減少し、角島診療所が 0.2 人（1.9%）増加している。

## (2) 建設改良の状況

当年度は、医療機器等整備事業について、眼科手術用顕微鏡一式、ナースコール設備及び電話交換機一式、上部消化管汎用及び大腸ビデオスコープ一式等、老朽化した医療機器を中心に更新を行い、医療の安全性の確保と機能強化に努めている。その他新型コロナウイルス対策関連の山口県の補助金を活用して、全身用 X 線 CT 撮影装置の更新を行っており、8,607 万 380 円を執行している。

## 2 予算の執行状況

当年度の予算執行状況は、次のとおりである。なお、地方公営企業法施行令第17条第2項により、予算は収益的収支と資本的収支に区分されており、収益的収支には事業年度内における経営活動による全ての収益とそれに対応する費用が計上され、資本的収支には、それ以外の貸借対照表勘定に属する取引などが計上されている。

### (1) 収益的収入及び支出

収益的収入及び支出の予算執行状況については、次表のとおりである。(別表2. P112～113を参照)

#### 収益的収入及び支出

(単位：円)

区 分	予 算 額 A	決 算 額 B	翌年度への 繰 越 額	予 算 額 に 比 べ 決 算 額 の 増 減 又 は 不 用 額	執 行 率 B/A (%)
病 院 事 業 収 益 C	1,159,511,000	1,100,225,860		△ 59,285,140	94.9
医 業 収 益	909,674,000	719,485,829		△ 190,188,171	79.1
医 業 外 収 益	241,738,000	373,307,825		131,569,825	154.4
特 別 利 益	8,099,000	7,432,206		△ 666,794	91.8
病 院 事 業 費 用 D	1,221,485,000	1,161,243,101		60,241,899	95.1
医 業 費 用	1,208,503,347	1,148,575,332		59,928,015	95.0
医 業 外 費 用	11,921,653	11,735,449		186,204	98.4
特 別 損 失	1,060,000	932,320		127,680	88.0
差 引 (C-D)	△ 61,974,000	△ 61,017,241			

病院事業収益は、予算額 11 億 5,951 万 1,000 円に対し、決算額 11 億 22 万 5,860 円で、執行率は 94.9%となり、病院事業費用は、予算額 12 億 2,148 万 5,000 円に対し、決算額 11 億 6,124 万 3,101 円で、執行率は 95.1%となっている。この結果、予算額は 6,197 万 4,000 円の赤字編成に対し、決算額でも 6,101 万 7,241 円の赤字となっている。

病院事業収益は、予算額に比べ決算額が 5,928 万 5,140 円少なくなっているが、これは主に、医業収益において入院収益が見込みを下回ったことによるものである。また、病院事業費用は、不用額が 6,024 万 1,899 円生じている。これは主に、職員の中途退職等による給与費の減少及び診療材料費等が見込みを下回ったことによるものである。

(2) 資本的収入及び支出

資本的収入及び支出の予算執行状況については、次表のとおりである。(別表2. P112～113を参照)

資本的収入及び支出

(単位：円)

区 分	予 算 額 A	決 算 額 B	翌年度への 繰 越 額	予 算 額 に 比 べ 決 算 額 の 増 減 又 は 不 用 額	執 行 率 B/A (%)
資 本 的 収 入 C	148,358,000	138,161,785		△ 10,196,215	93.1
企 業 債	41,100,000	41,100,000		0	100.0
負 担 金	54,358,000	54,356,785		△ 1,215	100.0
補 助 金	52,900,000	42,705,000		△ 10,195,000	80.7
資 本 的 支 出 D	186,780,000	178,847,478		7,932,522	95.8
建 設 改 良 費	94,000,000	86,070,380		7,929,620	91.6
企 業 債 償 還 金	92,780,000	92,777,098		2,902	100.0
差 引 (C - D)	△ 38,422,000	△ 40,685,693			

資本的収入は、予算額 1 億 4,835 万 8,000 円に対し、決算額 1 億 3,816 万 1,785 円で、執行率は 93.1%となり、資本的支出は、予算額 1 億 8,678 万円に対し、決算額 1 億 7,884 万 7,478 円で、執行率は 95.8%となっている。

資本的収支において、資本的収入額が資本的支出額に不足する額 4,068 万 5,693 円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 37 万 9,629 円及び過年度分損益勘定留保資金 4,030 万 6,064 円で補填されている。

(3) その他予算の執行状況

地方公営企業法施行令第17条第1項に規定される予算のうち、企業債等の執行状況は、以下のとおりであり、いずれも議決予算額の範囲内で執行されている。

その他予算の執行状況表

(単位：円)

区 分	議 決 予 算 額	執 行 額
企 業 債	41,100,000	41,100,000
議 会 の 議 決 を 経 な け れ ば 流 用 す る こ と の で き な い 経 費	職 給 与 員 費	677,089,077
	交 際 費	294,150
他 会 計 か ら の 補 助 金	一 般 会 計	38,256,127
	国 民 健 康 保 険 特 別 会 計	17,880,000

なお、一時借入金については、限度額（ある時点における一時借入金現在高の限度額）2億円で、当年度においては、8,000万円借入及び償還している。

(4) 他会計からの繰入状況

他会計からの補助金等の繰入状況は、次表のとおりである。

他会計からの繰入状況表

区		分	令和3年度	令和2年度	対前年度 比較増減	前年度 対比(%)	
一 般 会 計	収益的収入となるもの		268,495,813	217,515,057	50,980,756	123.4	
	医業 収益	他会計負担金	① 救急医療の確保に要する経費	53,247,000	52,008,000	1,239,000	102.4
			24時間救急体制に係る経費	53,247,000	52,008,000	1,239,000	102.4
	他会計 負担金		② 病院の建設改良に要する経費 (企業債償還利息)	5,104,686	5,959,635	△ 854,949	85.7
			③ へき地医療の確保に要する経費	16,390,000	14,694,000	1,696,000	111.5
			④ リハビリテーション 医療に要する経費	20,070,000	18,899,000	1,171,000	106.2
			⑤ 公立病院附属診療所 の運営に要する経費	14,200,000	14,200,000	0	100.0
			⑥ 不採算地区病院の運営に要する経費	121,228,000	77,440,000	43,788,000	156.5
			⑦ 経営基盤強化対策に要する経費	21,486,035	17,774,758	3,711,277	120.9
	医業外 収益	他会計 補助金	医師及び看護師等の 研究研修に要する経費	3,796,603	2,970,232	826,371	127.8
			病院事業会計に係る共済追加 費用の負担に要する経費	1,512,432	1,606,132	△ 93,700	94.2
			医師確保対策に要する経費	16,177,000	13,198,394	2,978,606	122.6
			⑧ 地方公営企業職員に係る基礎年金 拠出金に係る公的負担に要する経費	14,877,092	14,513,664	363,428	102.5
			⑨ 地方公営企業職員に係る 児童手当に要する経費	1,893,000	2,026,000	△ 133,000	93.4
	資本的収入となるもの		54,356,786	51,779,611	2,577,175	105.0	
	他会計 負担金		⑩ 病院の建設改良に要する経費	54,356,786	50,434,211	3,922,575	107.8
			企業債償還元金	54,356,786	50,434,211	3,922,575	107.8
	他会計 補助金		⑪ 経営基盤強化対策に要する経費		1,345,400	△ 1,345,400	皆減
			医師確保対策に要する経費		1,345,400	△ 1,345,400	皆減
	一般会計からの補助金等の合計			322,852,599	269,294,668	53,557,931	119.9
国民健康 保険特別 会計	収益的収入となるもの		9,330,000	13,779,000	△ 4,449,000	67.7	
	医業外 収益	他会計補助金	⑫ 国民健康保険調整交付金	9,330,000	13,779,000	△ 4,449,000	67.7
	資本的収入となるもの		8,550,000	3,798,000	4,752,000	225.1	
	他会計 補助金	⑬ 国民健康保険調整交付金	8,550,000	3,798,000	4,752,000	225.1	
国民健康保険特別会計からの補助金の合計			17,880,000	17,577,000	303,000	101.7	
他会計からの補助金等の合計			340,732,599	286,871,668	53,860,931	118.8	
収益的収入となるものの合計			277,825,813	231,294,057	46,531,756	120.1	
資本的収入となるものの合計			62,906,786	55,577,611	7,329,175	113.2	

当年度における他会計からの補助金等の合計額は 3 億 4,073 万 2,599 円で、前年度と比較し 5,386 万 931 円（18.8%）増加している。

これを、収益的収入と資本的収入に区分してみると、収益的収入として整理された他会計からの補助金等の合計額は 2 億 7,782 万 5,813 円で、前年度と比較し 4,653 万 1,756 円（20.1%）増加しており、その内訳は、一般会計が 5,098 万 756 円（23.4%）増加し、国民健康保険特別会計が 444 万 9,000 円（△ 32.3%）減少している。一般会計の増加は主に、一般会計からの負担金のうち不採算地区病院の運営に要する経費が増加したことによるものである。国民健康保険特別会計からの補助金は、角島診療所が診療検査医療機関として体制整備にかかる補助金の受入れがあったため、収支が改善したことにより減少したものである。また、資本的収入として整理された他会計からの補助金等の合計額は 6,290 万 6,786 円で、前年度と比較し 732 万 9,175 円（13.2%）増加しており、その内訳は、一般会計が 257 万 7,175 円（5.0%）増加し、国民健康保険特別会計が 475 万 2,000 円（125.1%）増加している。一般会計の増加は、豊田中央病院の企業債償還元金に係る一般会計からの負担金が増加したものである。また、国民健康保険特別会計の増加は、眼科手術用顕微鏡一式、ナースコール設備及び電話交換機一式の更新に伴う国民健康保険調整交付金を受けたことによるものである。

### 3 経営状況

#### (1) 経営成績

損益計算書をもとに作成した経営状況については、次表のとおりである。(別表3. P114～115を参照)

経営状況表

(単位：円)

区 分	令和3年度	令和2年度	対前年度 比較増減	前年度 対比 (%)
総収益 A	1,094,702,628	1,124,274,151	△ 29,571,523	97.4
医業収益 B	714,424,378	665,461,337	48,963,041	107.4
医業外収益 C	372,848,080	450,689,915	△ 77,841,835	82.7
特別利益 D	7,430,170	8,122,899	△ 692,729	91.5
総費用 E	1,156,146,751	1,131,135,183	25,011,568	102.2
医業費用 F	1,116,232,840	1,091,480,710	24,752,130	102.3
医業外費用 G	38,982,054	39,319,675	△ 337,621	99.1
特別損失 H	931,857	334,798	597,059	278.3
医業損益 (B - F)	△ 401,808,462	△ 426,019,373	24,210,911	94.3
医業外損益 (C - G)	333,866,026	411,370,240	△ 77,504,214	81.2
経常損益 (B + C) - (F + G) I	△ 67,942,436	△ 14,649,133	△ 53,293,303	463.8
特別損益 (D - H) J	6,498,313	7,788,101	△ 1,289,788	83.4
当年度純利益〔△損失〕(I + J) K	△ 61,444,123	△ 6,861,032	△ 54,583,091	895.6
前年度繰越欠損金 L	1,550,187,244	1,545,939,079	4,248,165	100.3
当年度未処理欠損金(L - K)	1,611,631,367	1,552,800,111	58,831,256	103.8
収益比率				
総収支比率 (A/E)	94.7%	99.4%	△ 4.7P	—
医業収支比率 (B/F)	64.0%	(72.4%) 61.0%	3.0P	—
経常収支比率 (B + C) / (F + G)	94.1%	(100.3%) 98.7%	△ 4.6P	—

注 括弧内の数値は、類似平均である。

当年度の総収益は 10 億 9,470 万 2,628 円で、前年度と比較し 2,957 万 1,523 円 (△ 2.6%) 減少し、総費用は 11 億 5,614 万 6,751 円で、前年度と比較し 2,501 万 1,568 円 (2.2%) 増加している。この結果、当年度の純損益は 6,144 万 4,123 円の損失となり、損失は前年度と比較し 5,458 万 3,091 円 (795.6%) 増加している。

事業の収益性をみると、総収支比率は 94.7%、医業収支比率は 64.0%、経常収支比率は 94.1%である。

なお、類似平均と豊田中央病院の当年度との比較では、豊田中央病院が、医業収支比率では 8.4 ポイント、経常収支比率では 6.2 ポイントともに低くなっている。

#### (2) 医業損益

当年度の医業収益は 7 億 1,442 万 4,378 円で、前年度と比較し 4,896 万 3,041 円 (7.4%) 増加している。医業収益の主なものは、入院収益 3 億 4,861 万 403 円、外来収益 2 億 3,964 万 6,610 円で、前年度と比較し、入院収益は 798 万 1,708 円 (2.3%)、外来収益は 1,448 万 7,041 円 (6.4%) とともに増加している。医業収益の増加は主に、令和3年4月から眼科



手術を再開したことにより、眼科手術件数の増加及び外来でのPCR検査の増加によるものである。

一方、医業費用は11億1,623万2,840円で、前年度と比較し2,475万2,130円(2.3%)増加している。医業費用の増加は主に、材料費及び経費であり、材料費は前年度と比較し726万6,543円(8.7%)増加しているが、これは主に、眼科手術実施に伴う医薬品購入費の増加及びPCR検査キット等の試薬購入費の増加により、薬品費が504万6,806円増加したためである。また、経費は前年度と比較し941万5,051円(4.1%)増加しているが、これは主に、清掃管理業務、食事サービス提供業務、新型コロナウイルス感染症関連特別管理産業廃棄物の収集運搬及び処分業務等の委託料が増加したことによるものである。

この結果、医業収益から医業費用を差し引いた医業損益は4億180万8,462円の損失となり、損失は前年度と比較し2,421万911円(△5.7%)減少している。

### (3) 医 業 外 損 益

医業外収益は3億7,284万8,080円で、前年度と比較し7,784万1,835円(△17.3%)減少している。これは主に、国及び県からの補助金が合わせて1億421万6,890円減少したことによるもので、国及び県からの新型コロナウイルス感染症患者の受入体制の整備や受入病床の確保に伴う補助金の減少によるものである。なお、医業外収益の主なものは、国及び県からの補助金、他会計からの補助金及び負担金、長期前受金戻入である。

一方、医業外費用は3,898万2,054円で、前年度と比較し33万7,621円(△0.9%)減少している。医業外費用の内訳は、支払利息及び企業債取扱諸費820万8,349円、雑損失3,077万3,705円で、前年度と比較し、支払利息及び企業債取扱諸費は118万8,517円(△12.6%)減少し、雑損失は85万896円(2.8%)増加している。

この結果、医業外収益から医業外費用を差し引いた医業外損益は3億3,386万6,026円の利益となり、利益は前年度と比較し7,750万4,214円(△18.8%)減少している。

以上から、医業収益及び医業外収益から医業費用及び医業外費用を差し引いた経常損益は6,794万2,436円の損失となっており、損失は前年度と比較し5,329万3,303円増加している。

### (4) 特 別 損 益

特別利益は743万170円で、前年度と比較し69万2,729円(△8.5%)減少しているが、これは主に、旧豊浦病院の長期前受金戻入が79万875円減少したことによるものである。一方、特別損失は93万1,857円で、前年度と比較し59万7,059円(178.3%)増加している。

この結果、特別利益から特別損失を差し引いた特別損益は649万8,313円の利益となり、利益は前年度と比較し128万9,788円(△16.6%)減少している。

(5) 欠 損 金 等

当年度の純損益は、6,144万4,123円の損失となり、損失は前年度と比較し5,458万3,091円（795.6%）増加している。損失の処理については、前年度繰越欠損金に累積され、当年度未処理欠損金として16億1,163万1,367円を翌年度に繰り越している。

利益剰余金（欠損金）の内訳並びに総収益、総費用及び欠損金の推移は、それぞれ次表のとおりである。

利益剰余金（欠損金）内訳表

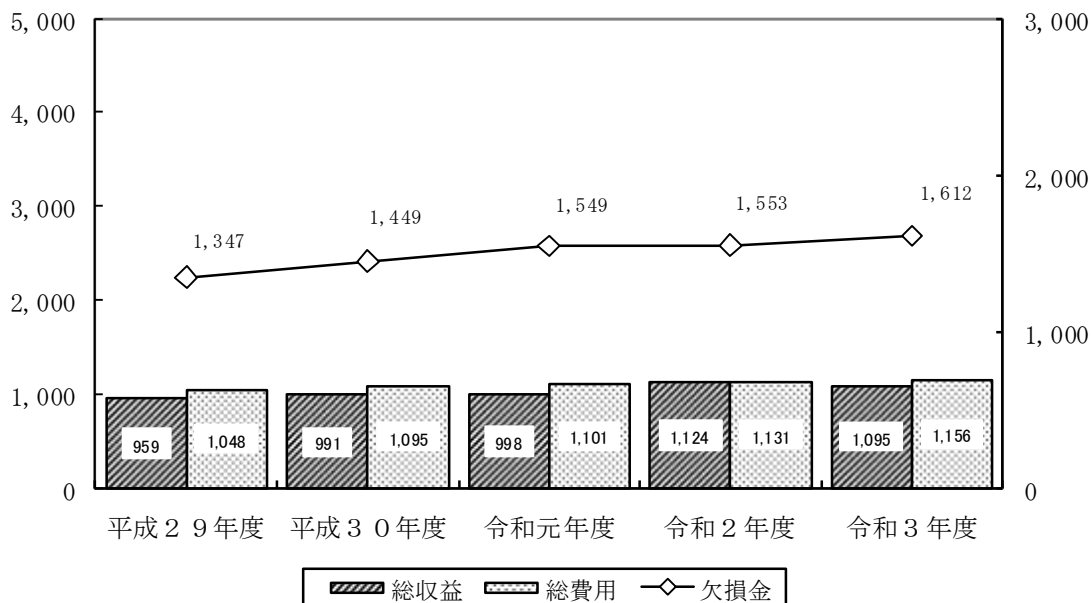
(単位：円)

区 分	令和3年度 A	令和2年度 B	対前年度 比較増減 A－B	前年度対比 A/B (%)
前年度繰越欠損金	1,550,187,244	1,545,939,079	4,248,165	100.3
当年度純利益（損失）	△ 61,444,123	△ 6,861,032	△ 54,583,091	895.6
当年度未処理欠損金	1,611,631,367	1,552,800,111	58,831,256	103.8

総収益・総費用・欠損金の推移

(単位：百万円)

(単位：百万円)



(6) 患者一人当たりの医業収益と医業費用

患者一人1日当たりの医業収益単価、入院収益単価、外来収益単価及び医業費用単価の状況は、次表のとおりである。

患者一人当たりの医業収益と医業費用（1日当たり）

(単位：円)

区 分	令和3年度	令和2年度	対前年度 比較増減	前年度 対比(%)
医 業 収 益 単 価 A	17,550	15,895	1,655	110.4
入 院 収 益 単 価	28,579	(24,824) 26,597	1,982	107.5
外 来 収 益 単 価	8,406	(8,843) 7,748	658	108.5
医 業 費 用 単 価 B	27,421	26,071	1,350	105.2
差 引 額 ( A - B )	△ 9,871	△ 10,176	305	97.0

- 注1 医業収益単価=医業収益/年延患者数  
 入院(外来)収益単価=入院(外来)収益/年延入院(年延外来)患者数  
 2 医業費用単価=医業費用/年延患者数  
 3 括弧内の数値は、類似平均である。

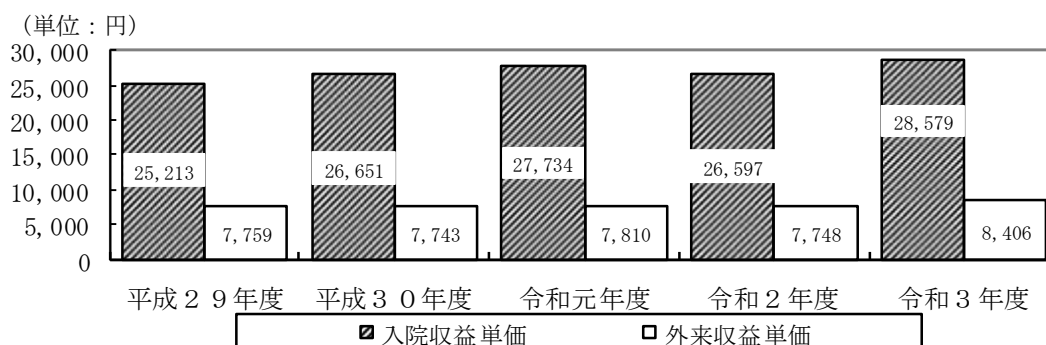
医業収益単価は1万7,550円で、そのうち入院収益単価は2万8,579円、外来収益単価は8,406円となっている。前年度との比較では、医業収益単価は1,655円(10.4%)増加しており、そのうち、入院収益単価は1,982円(7.5%)、外来収益単価は658円(8.5%)それぞれ増加している。

入院収益単価及び外来収益単価の増加は、主に、眼科手術件数の増加、新型コロナウイルス感染症の蔓延による入院患者の受入れ及び外来においてPCR検査等が増加したことによるものである。

参考までに、類似平均と豊田中央病院の当年度との比較では、豊田中央病院が、入院収益単価では3,755円高くなっており、外来収益単価では437円低くなっている。

なお、患者一人1日当たりの入院収益単価及び外来収益単価の推移は、次のグラフのとおりである。

患者一人1日当たりの入院収益単価・外来収益単価の推移



#### 4 財政状態

貸借対照表については、次表のとおりである。(別表4. P116~117を参照)

比較貸借対照表(抜粋)

(単位：円)

区 分	令和3年度 A	令和2年度 B	対前年度 比較増減 A - B	前年度 対 比 A/B (%)
固 定 資 産	1,403,456,040	1,420,854,770	△ 17,398,730	98.8
有 形 固 定 資 産	1,403,335,340	1,420,734,070	△ 17,398,730	98.8
土 地	242,967,437	242,967,437	0	100.0
建 物	896,278,201	948,656,281	△ 52,378,080	94.5
構 築 物	5,493,877	5,887,061	△ 393,184	93.3
器 械 及 び 備 品	258,461,525	223,088,991	35,372,534	115.9
車 両 運 搬 具	134,300	134,300	0	100.0
無 形 固 定 資 産	120,700	120,700	0	100.0
流 動 資 産	189,002,203	271,350,443	△ 82,348,240	69.7
現 金 及 び 預 金	7,170,203	101,390,634	△ 94,220,431	7.1
未 収 金	172,107,328	159,670,862	12,436,466	107.8
貸 倒 引 当 金	△ 1,006,448	△ 585,772	△ 420,676	171.8
貯 蔵 品	10,731,120	10,874,719	△ 143,599	98.7
資 産 合 計	1,592,458,243	1,692,205,213	△ 99,746,970	94.1
固 定 負 債	872,573,774	903,169,577	△ 30,595,803	96.6
企 業 債	412,040,950	471,650,466	△ 59,609,516	87.4
他 会 計 借 入 金	200,000,000	200,000,000	0	100.0
引 当 金	260,532,824	231,519,111	29,013,713	112.5
流 動 負 債	200,385,294	247,508,454	△ 47,123,160	81.0
企 業 債	100,709,516	92,777,098	7,932,418	108.5
未 払 金	60,193,516	115,568,051	△ 55,374,535	52.1
預 り 金	376,892	368,764	8,128	102.2
引 当 金	39,105,370	38,794,541	310,829	100.8
繰 延 収 益	273,119,911	236,358,628	36,761,283	115.6
負 債 合 計	1,346,078,979	1,387,036,659	△ 40,957,680	97.0
資 本 金	1,849,418,860	1,849,418,860	0	100.0
剰 余 金	△ 1,603,039,596	△ 1,544,250,306	△ 58,789,290	103.8
資 本 剰 余 金	8,591,771	8,549,805	41,966	100.5
利 益 剰 余 金	△ 1,611,631,367	△ 1,552,800,111	△ 58,831,256	103.8
資 本 合 計	246,379,264	305,168,554	△ 58,789,290	80.7
負 債 ・ 資 本 合 計	1,592,458,243	1,692,205,213	△ 99,746,970	94.1

## (1) 資 産

当年度末における資産総額は 15 億 9,245 万 8,243 円で、前年度末と比較し 9,974 万 6,970 円 ( $\Delta$  5.9%) 減少している。資産の内訳は、固定資産 14 億 345 万 6,040 円、流動資産 1 億 8,900 万 2,203 円である。

固定資産のうち、有形固定資産は 14 億 333 万 5,340 円で、主なものは、建物 8 億 9,627 万 8,201 円、器械及び備品 2 億 5,846 万 1,525 円である。無形固定資産は 12 万 700 円で、全額が電話加入権である。

前年度末と比較し、固定資産は 1,739 万 8,730 円 ( $\Delta$  1.2%) 減少しているが、これは主に、建物に係る減価償却によるものである。

次に、流動資産の主なものは、現金及び預金 717 万 203 円、未収金 1 億 7,210 万 7,328 円である。

前年度末と比較し、流動資産は 8,234 万 8,240 円 ( $\Delta$  30.3%) 減少しているが、これは主に、現金及び預金が 9,422 万 431 円 ( $\Delta$  92.9%) 減少したことによるもので、これは主に、新型コロナウイルス感染症患者の受入体制を整備するための補助金の減少等により医業外収益が減少したことが主な要因となっている。

## (2) 負 債

当年度末における負債総額は 13 億 4,607 万 8,979 円で、前年度末と比較し 4,095 万 7,680 円 ( $\Delta$  3.0%) 減少している。負債の内訳は、固定負債 8 億 7,257 万 3,774 円、流動負債 2 億 38 万 5,294 円、繰延収益 2 億 7,311 万 9,911 円である。固定負債の内訳は、企業債 4 億 1,204 万 950 円、他会計借入金 2 億円、引当金 2 億 6,053 万 2,824 円である。

前年度末と比較し、固定負債は 3,059 万 5,803 円 ( $\Delta$  3.4%) 減少しているが、これは主に、企業債の償還が一部完了したことによるものである。

流動負債の主なものは、企業債 1 億 70 万 9,516 円、未払金 6,019 万 3,516 円である。

前年度末と比較し、流動負債は 4,712 万 3,160 円 ( $\Delta$  19.0%) 減少しているが、これは主に、未払金が減少したことによるものである。

また、繰延収益は、前年度末と比較し 3,676 万 1,283 円 (15.6%) 増加している。

## (3) 資 本

当年度末における資本総額は 2 億 4,637 万 9,264 円で、前年度末と比較し 5,878 万 9,290 円 ( $\Delta$  19.3%) 減少している。資本の内訳は、資本金 18 億 4,941 万 8,860 円、剰余金 マイナス 16 億 303 万 9,596 円である。なお、資本金は、前年度と同額である。

次に、剰余金の内訳は、資本剰余金 859 万 1,771 円、利益剰余金 マイナス 16 億 1,163 万 1,367 円である。

前年度末と比較し、剰余金は 5,878 万 9,290 円 ( $\Delta$  3.8%) 減少しているが、これは主に、当年度純損失の発生により、利益剰余金が 5,883 万 1,256 円 ( $\Delta$  3.8%) 減少したことによるものである。

(4) 企業債の借入及び償還状況

企業債の借入及び償還状況については、次表のとおりである。

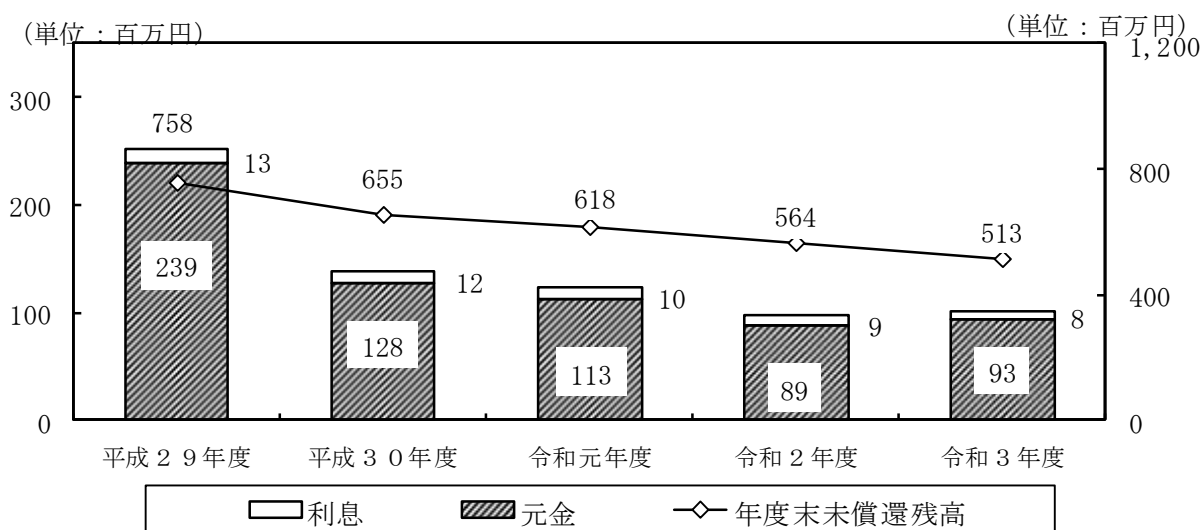
企業債の借入及び償還状況の年度比較表

区 分	前 年 度 末 未 償 還 残 高 A	当 年 度 新 規 借 入 額 B	当 年 度 償 還 額			当 年 度 末 未 償 還 残 高 A+B-C
			元 金 C	利 息 D	合 計 C + D	
平成29年度	866,245,055	130,000,000	238,611,494	12,844,233	251,455,727	757,633,561
平成30年度	757,633,561	24,600,000	127,644,746	11,557,680	139,202,426	654,588,815
令和元年度	654,588,815	76,100,000	113,124,014	10,481,465	123,605,479	617,564,801
令和2年度 E	617,564,801	35,700,000	88,837,237	9,396,866	98,234,103	564,427,564
令和3年度 F	564,427,564	41,100,000	92,777,098	7,698,596	100,475,694	512,750,466
豊田中央病院	412,095,857	41,100,000	78,235,045	4,655,099	82,890,144	374,960,812
旧豊浦病院	152,331,707		14,542,053	3,043,497	17,585,550	137,789,654
対前年度比較増減 (F-E)	△ 53,137,237	5,400,000	3,939,861	△ 1,698,270	2,241,591	△ 51,677,098
前年度対比 (F/E)	% 91.4	% 115.1	% 104.4	% 81.9	% 102.3	% 90.8

前年度末における企業債未償還残高は 5 億 6,442 万 7,564 円である。当年度の新規借入額は 4,110 万円で、元利償還額は 1 億 47 万 5,694 円である。前年度と比較し、新規借入額は 540 万円（15.1%）増加し、元利償還額は 224 万 1,591 円（2.3%）増加している。この結果、当年度末における企業債未償還残高は 5 億 1,275 万 466 円となり、前年度末と比較し 5,167 万 7,098 円（△ 9.2%）減少している。

企業債の年度末未償還残高及び元利償還額の推移は、次のグラフのとおりである。

企業債未償還残高と元利償還額の推移



## 5 経営指標の状況

主要な経営指標の状況については、次表のとおりである。(別表5. P118～119を参照)

主要な経営指標の状況

区 分	算 式	(単位：%)				
		令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度
自己資本構成比率 (比率が大きいほどよい)	$\frac{\text{自己資本} + \text{繰延収益}}{\text{負債} + \text{資本合計}} \times 100$	32.6	32.0	29.4	37.1	38.7
固定長期適合率 (望ましい比率100%以下)	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本} + \text{固定負債} + \text{繰延収益}} \times 100$	100.8	98.3	96.6	101.9	95.1
流動比率 (理想比率200%以上)	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	94.3	109.6	115.7	86.7	133.1
当座比率 (理想比率100%以上)	$\frac{\text{現金預金} + (\text{未収金} - \text{貸倒引当金})}{\text{流動負債}} \times 100$	89.0	105.2	113.0	83.1	128.9
経常収支比率 (理想比率100%以上)	$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$	94.1	(100.3) 98.7	(97.4) 89.5	(97.1) 88.8	(98.0) 87.5
医業収支比率 (理想比率100%以上)	$\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$	64.0	(72.4) 61.0	(75.6) 72.2	(75.5) 71.0	(77.0) 70.5
修正医業収支比率 (理想比率100%以上)	$\frac{\text{医業収益} - \text{他会計負担金}}{\text{医業費用}} \times 100$	59.2	(68.3) 56.2	(71.5) 67.3	(71.6) 66.3	(73.0) 65.5
病床利用率	$\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$	55.7	(61.3) 60.5	(65.9) 68.6	(66.5) 71.4	(67.9) 59.4

注1 算式欄における用語は、次のとおりである。

自己資本＝資本金＋剰余金

2 括弧内の数値は、類似平均である。

経営の安全性を示す自己資本構成比率は 32.6%で、前年度と比較し 0.6 ポイント上昇している。

固定資産投資の安全性を示す固定長期適合率は 100.8%で、前年度と比較し 2.5 ポイント上昇し、望ましいとされる比率（100%以下）を超えている。

向こう1年の支払能力及び信用度を示す流動比率は 94.3%で、前年度と比較し 15.3 ポイント低下しており、理想とされる比率（200%以上）を下回っている。

当座の支払能力を示す当座比率は 89.0%で、前年度と比較し 16.2 ポイント低下し、理想とされる比率（100%以上）を下回っている。

通常の病院活動による収益状況を示す経常収支比率は 94.1%で、前年度と比較し 4.6 ポイント低下し、理想とされる比率（100%以上）を下回っている。

医業活動における経営状況を示す医業収支比率は 64.0%で、医業収益に含まれる一般会計からの繰入金を控除した修正医業収支比率は 59.2%で、前年度と比較しともに 3.0 ポイント上昇しているものの、理想とされる比率（100%以上）を下回っている。

病院の施設が有効に活用されているかを示す病床利用率は 55.7%で、前年度と比較し 4.8 ポイント低下している。

## 6 資金の状況

キャッシュ・フロー計算書の状況は、次表のとおりである。

業務活動によるキャッシュ・フローは、本来の業務活動の実施に係る資金の状況を表し、投資活動によるキャッシュ・フローは、将来に向けた運営基盤の確立のために行われる投資活動に係る資金の状況を表し、財務活動によるキャッシュ・フローは、資金調達及び返済による資金の状況を表している。

### キャッシュ・フロー計算書

(単位：円)

区 分	令和3年度 A	令和2年度 B	対前年度 比較増減 A－B
<b>I 業務活動によるキャッシュ・フロー</b>			
当年度純利益（△は純損失）	△ 61,444,123	△ 6,861,032	△ 54,583,091
減価償却費	101,426,999	97,027,813	4,399,186
退職給付引当金の増減額	29,013,713	△ 20,193,923	49,207,636
賞与引当金の増減額	310,829	920,724	△ 609,895
貸倒引当金の増減額	420,676	146,101	274,575
長期前受金戻入額	△ 57,645,669	△ 57,195,664	△ 450,005
受取利息及び受取配当金	△ 1,157	△ 944	△ 213
支払利息	8,208,349	9,396,866	△ 1,188,517
固定資産除却費	1,662,482	2,414,663	△ 752,181
未収金の増減額（△は増加）	△ 9,029,866	△ 27,836,826	18,806,960
未払金の増減額（△は減少）	△ 55,374,535	△ 87,676,297	32,301,762
預り金の増減額（△は減少）	8,128	25,833	△ 17,705
たな卸資産の増減額（△は増加）	143,599	△ 2,044,124	2,187,723
消費税資本的収支調整額	379,629	140,557	239,072
小 計	△ 41,920,946	△ 91,736,253	49,815,307
利息及び配当金の受取額	1,157	944	213
利息の支払額	△ 8,208,349	△ 9,396,866	1,188,517
<b>業務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 50,128,138</b>	<b>△ 101,132,175</b>	<b>51,004,037</b>
<b>II 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>			
有形固定資産の取得による支出	△ 86,070,380	△ 45,609,355	△ 40,461,025
県補助金による収入	34,155,000	3,706,000	30,449,000
一般会計又は他の特別会計からの繰入金による収入	59,500,185	94,284,211	△ 34,784,026
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>7,584,805</b>	<b>52,380,856</b>	<b>△ 44,796,051</b>
<b>III 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>			
一時借入れによる収入	80,000,000	50,000,000	30,000,000
一時借入金の返済による支出	△ 80,000,000	△ 50,000,000	△ 30,000,000
建設改良企業債による収入	41,100,000	35,700,000	5,400,000
建設改良企業債の償還による支出	△ 92,777,098	△ 88,837,237	△ 3,939,861
他会計からの長期借入れによる収入			0
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 51,677,098</b>	<b>△ 53,137,237</b>	<b>1,460,139</b>
<b>IV 資金増加額（又は減少額）</b>	<b>△ 94,220,431</b>	<b>△ 101,888,556</b>	<b>7,668,125</b>
<b>V 資金期首残高</b>	<b>101,390,634</b>	<b>203,279,190</b>	<b>△ 101,888,556</b>
<b>VI 資金期末残高</b>	<b>7,170,203</b>	<b>101,390,634</b>	<b>△ 94,220,431</b>



業務活動によるキャッシュ・フローは マイナス 5,012 万 8,138 円、投資活動によるキャッシュ・フローは 758 万 4,805 円、財務活動によるキャッシュ・フローは マイナス 5,167 万 7,098 円となっており、その結果、当年度に資金は 9,422 万 431 円減少し、資金期首残高 1 億 139 万 634 円に対し、資金期末残高は 717 万 203 円となっている。なお、病院別の資金期末残高の内訳は豊田中央病院が マイナス 9,951 万 3,251 円、旧豊浦病院が 1 億 668 万 3,454 円である。

## 7 未収金の状況

当年度末現在における未収金の状況は、次表のとおりである。

未 収 金 明 細 表

(単位：円)

区 分	過 年 度 分 未 収 金					当 年 度 分 未 収 金 F	翌 年 度 繰 越 未 収 金 E + F
	前 年 度 繰 越 額 A	調 定 減 額 分 B	収 入 済 額 C	収 入 率 C/(A-B) (%)	不 納 欠 損 欠 分 等 D		
医 業 収 益	45,132,204	643,960	42,791,155	96.2		1,697,089	116,544,487
入 院 収 益	7,566,558	2,702	6,022,339	79.6		1,541,517	65,377,889
外 来 収 益	31,190,587	628,523	30,485,580	99.7		76,484	35,916,204
その他医業収益	6,375,059	12,735	6,283,236	98.8		79,088	15,250,394
医 業 外 収 益	40,303,248		40,293,043	100.0		10,205	19,804,731
そ の 他	74,235,410		74,235,410	100.0		0	35,758,110
合 計	159,670,862	643,960	157,319,608	98.9		1,707,294	172,107,328

翌年度繰越未収金は総額 1 億 7,210 万 7,328 円で、その内訳は医業収益 1 億 1,654 万 4,487 円、医業外収益 1,980 万 4,731 円である。

翌年度に繰り越された過年度分の未収金は 170 万 7,294 円であり、前年度の 152 万 3,466 円と比較し 18 万 3,828 円 (12.1%) 増加している。

患者負担の公平性の確保及び医業収益の適正化を図るべく、引き続き、新たな未収の発生防止と未収金の回収に努められたい。

以上が、当年度の下関市病院事業会計の決算報告書及び財務諸表等を審査した結果の概要である。

あらためて当年度の業務実績をみると、患者数は 4 万 707 人で前年度と比較し 1,159 人（△ 2.8%）減少している。内訳として、外来患者数は 550 人（△ 1.9%）減少し、入院患者数は 609 人（△ 4.8%）減少している。病院及び診療所別にみると、外来患者数は、豊田中央病院が 526 人（△ 2.0%）減少し、2 診療所は 24 人（△ 0.8%）減少している。

次に、当年度の経営成績をみると、総収益は 10 億 9,470 万 2,628 円で、前年度と比較し 2,957 万 1,523 円（△ 2.6%）減少し、総費用は 11 億 5,614 万 6,751 円で、前年度と比較し 2,501 万 1,568 円（ 2.2%）増加している。この結果、当年度の純損益は 6,144 万 4,123 円の損失となり、前年度繰越欠損金 15 億 5,018 万 7,244 円と合わせた当年度未処理欠損金は 16 億 1,163 万 1,367 円となっている。

豊田中央病院は、菊川町、豊田町、豊北町の下関市北部地域の山間へき地・過疎地域において、近隣の救急医療機関との連携強化を図りながら、24 時間救急医療体制の維持、夜間休日の医療サービスの提供、地域住民への良質な医療サービスの提供に努め、この地域の中核病院の役割を果たしている。

令和 3 年度は、令和元年度末から続く新型コロナウイルス感染症の対応に追われる年であった。新型コロナウイルス感染症の入院協力医療機関及び診療・検査医療機関として、感染症患者の受入れや病床の確保などの対応は、公立病院として下関市北部地域の中核的な役割を果たしており、地域住民が安全で安心できる医療体制の確立につながっている。

病院運営では、新型コロナウイルス感染症の蔓延により入院患者、外来患者ともに減少したが、当該年度は即応病床対応を一般病床と併用で運用したことにより、収益単価の高い眼科手術等が増加している。一方、新型コロナウイルス感染症関連の国及び県からの補助金が合わせて 1 億 421 万 6,890 円減少したため、結果的に収支の悪化につながった形となっている。新型コロナウイルス感染症の動向を踏まえた当面の経営環境は、不確実で厳しい状況が続くと思われる。このような中で、地域に密着した適正かつ良質な医療の提供を継続していくためには、経営の健全化は必須であることから、引き続き収益の確保や費用の抑制等の総合的な取組を推進し、経営改善につなげられたい。

今後も感染対策の徹底に努められ、地域の中核的な公的医療機関として、医療需要に対応した医療機能の維持、安定的な確保とともに、診療体制の更なる充実が図られ、公共の福祉の増進と医療水準の向上に一層貢献されることを望むものである。

## 資 料

別表1	令和3年度	下 関 市 病 院 事 業 業 務 実 績 表 (各病院別診療科別入院・外来患者数の内訳表)	.....	1 1 0
別表2	令和3年度	下 関 市 病 院 事 業 会 計 予 算 決 算 対 照 表	.....	1 1 2
別表3	令和3年度	下 関 市 病 院 事 業 会 計 比 較 損 益 計 算 書	.....	1 1 4
別表4	令和3年度	下 関 市 病 院 事 業 会 計 比 較 貸 借 対 照 表	.....	1 1 6
別表5	令和3年度	下 関 市 病 院 事 業 会 計 経 営 分 析 表	.....	1 1 8

別 表 1

 令和 3 年度 下 関 市 病 院 事 業  
 ( 各 病 院 別 診 療 科 別 入 院 ・ 外 来 )

区	分	病 院 事 業 全 体			豊 田 中 央 病 院			
		人 数	構 成 比 (%)	対 前 年 度 比 較 増 減	人 数	構 成 比 (%)	対 前 年 度 比 較 増 減	
総 合 診 療 科	外 来	令和 3 年度	14,134	34.7	373	10,983	29.2	397
		令和 2 年度	13,761	32.9		10,586	27.4	
	入 院	令和 3 年度	10,366	25.5	△ 1,627	10,366	27.6	△ 1,627
		令和 2 年度	11,993	28.6		11,993	31.0	
外 科	外 来	令和 3 年度	741	1.8	489	741	2.0	489
		令和 2 年度	252	0.6		252	0.7	
	入 院	令和 3 年度	875	2.1	875	875	2.3	875
		令和 2 年度						
脳 神 経 外 科	外 来	令和 3 年度	164	0.4	△ 71	164	0.4	△ 71
		令和 2 年度	235	0.6		235	0.6	
整 形 外 科	外 来	令和 3 年度	3,298	8.1	△ 1,070	3,298	8.8	△ 1,070
		令和 2 年度	4,368	10.4		4,368	11.3	
泌 尿 器 科	外 来	令和 3 年度	997	2.4	50	997	2.7	50
		令和 2 年度	947	2.3		947	2.4	
皮 膚 科	外 来	令和 3 年度	1,075	2.6	△ 125	1,075	2.9	△ 125
		令和 2 年度	1,200	2.9		1,200	3.1	
眼 科	外 来	令和 3 年度	8,100	19.9	△ 196	8,100	21.6	△ 196
		令和 2 年度	8,296	19.8		8,296	21.4	
	入 院	令和 3 年度	957	2.4	143	957	2.5	143
		令和 2 年度	814	1.9		814	2.1	
合 計	外 来	令和 3 年度	28,509	70.0	△ 550	25,358	67.5	△ 526
		令和 2 年度	29,059	69.4		25,884	66.9	
	入 院	令和 3 年度	12,198	30.0	△ 609	12,198	32.5	△ 609
		令和 2 年度	12,807	30.6		12,807	33.1	
	計	令和 3 年度	40,707	100.0	△ 1,159	37,556	100.0	△ 1,135
		令和 2 年度	41,866	100.0		38,691	100.0	

注1 豊田中央病院の総合診療科には、内科及び小児科患者を含む。

2 豊田中央病院のリハビリテーション科患者は、表記診療科のいずれかに含まれる。

3 殿居診療所の内科、外科は、総合診療科に含まれる。

4 角島診療所の内科、外科、小児科は、総合診療科に含まれる。



別 表 2

令和3年度 下関市病院事業会計

(収益的収支の部)

区 分			予 算 額	決 算 額	執 行 率(%)
款	項	目			
病	院	事 業 収 益	1,159,511,000	1,100,225,860	94.9
	医	業 収 益	909,674,000	719,485,829	79.1
		入 院 収 益	539,000,000	348,610,403	64.7
		外 来 収 益	255,200,000	239,663,430	93.9
		そ の 他 医 業 収 益	115,474,000	131,211,996	113.6
	医	業 外 収 益	241,738,000	373,307,825	154.4
		受 取 利 息 及 び 配 当 金	3,000	1,157	38.6
		補 助 金	53,546,000	143,916,958	268.8
		負 担 金 交 付 金	136,085,000	176,992,686	130.1
		患 者 外 給 食 収 益	3,000		0.0
		長 期 前 受 金 戻 入	49,829,000	50,605,800	101.6
		そ の 他 医 業 外 収 益	2,272,000	1,791,224	78.8
		特 別 利 益	8,099,000	7,432,206	91.8
		過 年 度 損 益 修 正 益	1,060,000	392,337	37.0
		長 期 前 受 金 戻 入	7,039,000	7,039,869	100.0
病	院	事 業 費 用	1,221,485,000	1,161,243,101	95.1
	医	業 費 用	1,208,503,347	1,148,575,332	95.0
		給 与 費	697,921,000	677,089,077	97.0
		材 料 費	130,443,003	99,009,760	75.9
		経 費	266,706,971	261,687,690	98.1
		減 価 償 却 費	101,431,373	101,426,999	100.0
		資 産 減 耗 費	1,700,000	1,662,482	97.8
		研 究 研 修 費	10,301,000	7,699,324	74.7
	医	業 外 費 用	11,921,653	11,735,449	98.4
		支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費	8,390,753	8,208,349	97.8
		消 費 税 及 び 地 方 消 費 税	3,530,900	3,527,100	99.9
		特 別 損 失	1,060,000	932,320	88.0
		過 年 度 損 益 修 正 損	1,060,000	932,320	88.0

予算決算対照表

(資本的収支の部)

(単位：円)

区 分			予 算 額	決 算 額	執 行 率(%)
款	項	目			
資	本	的 収 入	148,358,000	138,161,785	93.1
	企	業 債	41,100,000	41,100,000	100.0
	企	業 債	41,100,000	41,100,000	100.0
	負	担 金	54,358,000	54,356,785	100.0
	他	会 計 負 担 金	54,358,000	54,356,785	100.0
	補	助 金	52,900,000	42,705,000	80.7
	県	補 助 金	44,000,000	34,155,000	77.6
	他	会 計 補 助 金	8,900,000	8,550,000	96.1
資	本	的 支 出	186,780,000	178,847,478	95.8
	建	設 改 良 費	94,000,000	86,070,380	91.6
	器	械 及 び 備 品 費	94,000,000	86,070,380	91.6
	企	業 債 償 還 金	92,780,000	92,777,098	100.0
	企	業 債 償 還 金	92,780,000	92,777,098	100.0

別 表 3

令和3年度 下関市病院事業会計

区 分	令和3年度		令和2年度		対前年度 比較増減 A-B	前年度 対比 A/B (%)
	金 額 A	構成比 (%)	金 額 B	構成比 (%)		
医 業 費 用	1,116,232,840	96.5	1,091,480,710	96.5	24,752,130	102.3
給 与 費	676,212,585	58.5	673,322,226	59.5	2,890,359	100.4
材 料 費	91,011,631	7.9	83,745,088	7.4	7,266,543	108.7
経 費	238,307,831	20.6	228,892,780	20.2	9,415,051	104.1
減 価 償 却 費	101,426,999	8.8	97,027,813	8.6	4,399,186	104.5
資 産 減 耗 費	1,662,482	0.1	2,414,663	0.2	△ 752,181	68.8
研 究 研 修 費	7,611,312	0.7	6,078,140	0.5	1,533,172	125.2
医 業 外 費 用	38,982,054	3.4	39,319,675	3.5	△ 337,621	99.1
支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費	8,208,349	0.7	9,396,866	0.8	△ 1,188,517	87.4
雑 損 失	30,773,705	2.7	29,922,809	2.6	850,896	102.8
特 別 損 失	931,857	0.1	334,798	0.0	597,059	278.3
過 年 度 損 益 修 正 損	931,857	0.1	334,798	0.0	597,059	278.3
小 計	1,156,146,751	100.0	1,131,135,183	100.0	25,011,568	102.2
合 計	1,156,146,751		1,131,135,183		25,011,568	102.2



# 比較損益計算書

(単位：円)

区 分	令和3年度		令和2年度		対前年度 比較増減 C-D	前年度 対比 C/D (%)
	金 額 C	構成比 (%)	金 額 D	構成比 (%)		
医 業 収 益	714,424,378	65.3	665,461,337	59.2	48,963,041	107.4
入 院 収 益	348,610,403	31.8	340,628,695	30.3	7,981,708	102.3
外 来 収 益	239,646,610	21.9	225,159,569	20.0	14,487,041	106.4
そ の 他 医 業 収 益	126,167,365	11.5	99,673,073	8.9	26,494,292	126.6
医 業 外 収 益	372,848,080	34.1	450,689,915	40.1	△ 77,841,835	82.7
受 取 利 息 及 び 配 当 金	1,157	0.0	944	0.0	213	122.6
補 助 金	143,553,217	13.1	248,277,402	22.1	△ 104,724,185	57.8
負 担 金 交 付 金	176,992,686	16.2	151,225,421	13.5	25,767,265	117.0
患 者 外 給 食 収 益					0	
長 期 前 受 金 戻 入	50,605,800	4.6	49,364,920	4.4	1,240,880	102.5
そ の 他 医 業 外 収 益	1,695,220	0.2	1,821,228	0.2	△ 126,008	93.1
特 別 利 益	7,430,170	0.7	8,122,899	0.7	△ 692,729	91.5
過 年 度 損 益 修 正	390,301	0.0	292,155	0.0	98,146	133.6
長 期 前 受 金 戻 入	7,039,869	0.6	7,830,744	0.7	△ 790,875	89.9
そ の 他 特 別 利 益					0	
小 計	1,094,702,628	100.0	1,124,274,151	100.0	△ 29,571,523	97.4
当 年 度 純 損 失	61,444,123		6,861,032		54,583,091	895.6
合 計	1,156,146,751		1,131,135,183		25,011,568	102.2

## 別 表 4

## 令和3年度 下関市病院事業会計

区 分	令和3年度		令和2年度		対前年度 比較増減 A-B	前年度 対比 A/B(%)
	金額 A	構成比 (%)	金額 B	構成比 (%)		
資 産	1,592,458,243	100.0	1,692,205,213	100.0	△ 99,746,970	94.1
固 定 資 産	1,403,456,040	88.1	1,420,854,770	84.0	△ 17,398,730	98.8
有形固定資産	1,403,335,340	88.1	1,420,734,070	84.0	△ 17,398,730	98.8
土 地	242,967,437	15.3	242,967,437	14.4	0	100.0
建 物	896,278,201	56.3	948,656,281	56.1	△ 52,378,080	94.5
構 築 物	5,493,877	0.3	5,887,061	0.3	△ 393,184	93.3
器 械 及 び 備 品	258,461,525	16.2	223,088,991	13.2	35,372,534	115.9
車両運搬具	134,300	0.0	134,300	0.0	0	100.0
無形固定資産	120,700	0.0	120,700	0.0	0	100.0
電話加入権	120,700	0.0	120,700	0.0	0	100.0
流 動 資 産	189,002,203	11.9	271,350,443	16.0	△ 82,348,240	69.7
現 金 預 金	7,170,203	0.5	101,390,634	6.0	△ 94,220,431	7.1
未 収 金	172,107,328	10.8	159,670,862	9.4	12,436,466	107.8
貸倒引当金	△ 1,006,448	0.0	△ 585,772	0.0	△ 420,676	171.8
貯 蔵 品	10,731,120	0.7	10,874,719	0.6	△ 143,599	98.7
合 計	1,592,458,243	100.0	1,692,205,213	100.0	△ 99,746,970	94.1

比較貸借対照表

(単位：円)

区 分	令和3年度		令和2年度		対前年度 比較増減 C-D	前年度 対比 C/D(%)
	金額 C	構成比 (%)	金額 D	構成比 (%)		
負債	1,346,078,979	84.5	1,387,036,659	82.0	△ 40,957,680	97.0
固定負債	872,573,774	54.8	903,169,577	53.4	△ 30,595,803	96.6
企業債	412,040,950	25.9	471,650,466	27.9	△ 59,609,516	87.4
他会計借入金	200,000,000	12.6	200,000,000	11.8	0	100.0
引当金	260,532,824	16.4	231,519,111	13.7	29,013,713	112.5
流動負債	200,385,294	12.6	247,508,454	14.6	△ 47,123,160	81.0
企業債	100,709,516	6.3	92,777,098	5.5	7,932,418	108.5
未払金	60,193,516	3.8	115,568,051	6.8	△ 55,374,535	52.1
預り金	376,892	0.0	368,764	0.0	8,128	102.2
引当金	39,105,370	2.5	38,794,541	2.3	310,829	100.8
繰延収益	273,119,911	17.2	236,358,628	14.0	36,761,283	115.6
長期前受金	916,737,994	57.6	833,570,911	49.3	83,167,083	110.0
長期前受金 収益化累計額	△ 643,618,083	△ 40.4	△ 597,212,283	△ 35.3	△ 46,405,800	107.8
資本	246,379,264	15.5	305,168,554	18.0	△ 58,789,290	80.7
資本金	1,849,418,860	116.1	1,849,418,860	109.3	0	100.0
固有資本金	81,173,018	5.1	81,173,018	4.8	0	100.0
繰入資本金	1,768,245,842	111.0	1,768,245,842	104.5	0	100.0
剰余金	△ 1,603,039,596	△ 100.7	△ 1,544,250,306	△ 91.3	△ 58,789,290	103.8
資本剰余金	8,591,771	0.5	8,549,805	0.5	41,966	100.5
受贈財産額 評価額	5,936,938	0.4	5,936,938	0.4	0	100.0
他会計 負担金	2,654,833	0.2	2,612,867	0.2	41,966	101.6
利益剰余金	△ 1,611,631,367	△ 101.2	△ 1,552,800,111	△ 91.8	△ 58,831,256	103.8
当年度未処分 利益剰余金	△ 1,611,631,367	△ 101.2	△ 1,552,800,111	△ 91.8	△ 58,831,256	103.8
合計	1,592,458,243	100.0	1,692,205,213	100.0	△ 99,746,970	94.1

別 表 5

令和3年度 下関市病院事業会計

分析項目	区 分	令 和 3 年 度		
		算 式	基 礎 金 額	比 率 (%)
構 成 比 率	固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}} \times 100$	$\frac{1,403,456,040}{1,592,458,243}$	88.1
	固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{負債・資本合計}} \times 100$	$\frac{872,573,774}{1,592,458,243}$	54.8
	自己資本構成比率	$\frac{\text{自己資本+繰延収益}}{\text{負債・資本合計}} \times 100$	$\frac{519,499,175}{1,592,458,243}$	32.6
財 務 比 率	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本+繰延収益}} \times 100$	$\frac{1,403,456,040}{519,499,175}$	270.2
	固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本+固定負債+繰延収益}} \times 100$	$\frac{1,403,456,040}{1,392,072,949}$	100.8
	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	$\frac{189,002,203}{200,385,294}$	94.3
	当座比率	$\frac{\text{現金預金+(未収金-貸倒引当金)}}{\text{流動負債}} \times 100$	$\frac{178,271,083}{200,385,294}$	89.0
収 益 比 率	総収支比率	$\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$	$\frac{1,094,702,628}{1,156,146,751}$	94.7
	医業収支比率	$\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$	$\frac{714,424,378}{1,116,232,840}$	64.0
	経常収支比率	$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$	$\frac{1,087,272,458}{1,155,214,894}$	94.1
	修正医業収支比率	$\frac{\text{医業収益-他会計負担金}}{\text{医業費用}} \times 100$	$\frac{661,177,378}{1,116,232,840}$	59.2
そ の 他	病床利用率	$\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$	$\frac{12,198}{21,900}$	55.7

注 算式欄における用語は次のとおりである。

総資産 = 固定資産 + 流動資産 + 繰延勘定

自己資本 = 資本金 + 剰余金

総収益 = 医業収益 + 医業外収益 + 特別利益

総費用 = 医業費用 + 医業外費用 + 特別損失

経常収益 = 医業収益 + 医業外収益

経常費用 = 医業費用 + 医業外費用

年延病床数 = 入院診療日数 × 病床数 (休床病床数は除く)

## 経営分析表

(単位：円)

令和 2年度	令和 元年度	平成 30年度	平成 29年度	説 明
比率 (%)	比率 (%)	比率 (%)	比率 (%)	
84.0	79.4	89.1	82.8	総資産に対する固定資産の占める割合で、これが大であれば、資本が固定化の傾向にある。
53.4	52.8	50.3	48.4	固定負債構成比率、自己資本構成比率は負債・資本合計とこれを構成する固定負債、自己資本の関係を示すもので、固定負債構成比率が小であり、自己資本構成比率が大であるほど、経営の安全性が大きいといえる。
32.0	29.4	37.1	38.7	
262.4	270.0	239.9	214.1	固定資産は自己資本によって賄われるべきであるとする企業財政上の原則から、100%以下が好ましいとされている。
98.3	96.6	101.9	95.1	固定資産を形成した長期の安定した資金の割合を示し、100%を下回っていることが必要とされ、超える場合は、固定資産の整備を流動負債で賄っていることを表す。
109.6	115.7	86.7	133.1	1年以内に現金化できる資産と、1年以内に返済すべき負債とを比較するもので、企業の支払能力、信用度を判定するのに用いる。収益性を害さない限り、200%以上あることが理想である。
105.2	113.0	83.1	128.9	当座資産と流動負債とを対比させたもので、100%以上が理想である。
99.4	90.7	90.5	91.5	総収益と総費用を対比させたもので、100%未満の場合は、赤字決算である。
61.0	72.2	71.0	70.5	業務活動の能率を示すもので、経営活動の成否が判断される。
98.7	89.5	88.8	87.5	期間内の経常的な収益と費用の関連を示すもので、これにより経営活動の成否が判断される。
56.2	67.3	66.3	65.5	病院自体の経営改革努力をより明確にするため、医業収益より自治体から繰入金を控除した医業収益を対象として、経営活動の成否が判断される。
60.5	68.6	71.4	59.4	病院の施設が有効に活用されているかの成否が判断される。

